

県研究主題

社会的な見方や考え方を養い、よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を培う学習指導と評価の工夫・改善

提案1

提案者 若林 啓之（横須賀地区）

<研究主題>

社会との関わりを実感し、自分自身を考えていく社会科学習

1 提案内容

単元名「武士による政治の始まり」（6年）

(1) 研究テーマ・研究主題との関連について

- ① 幕府が時代の中心を担うようになってからも朝廷が続いており、その勢力関係が変化する中で、歴史上の出来事を様々な角度から見ていくことによって、「社会的な見方や考え方を養う」ことにつながるのではないかと。
- ② 貴族による政治から武士による政治へと移り変わる時代を学習する中で、児童自ら、その時代の分かれ目をどう判断するかという活動を行うことにより、個々人と社会とのつながりや、その判断を下した自分自身について考えていく土台となるのではないかと。

(2) 単元について

- ① 年間を通した歴史学習と、歴史学習後の学習へのつながりも考えた指導計画の工夫
幕府が開かれた後も朝廷は存続し続けており、時代の権力者と朝廷や天皇との関係は、この場面に限らず、日本の歴史の様々な場面で比べながら考えることができる。朝廷を意識して鎌倉時代を学習することは、意味のあることである。
- ② 言語活動について
幅広い見方や考え方ができるようになるために、自分の考えを言葉で表現する力を伸ばすことを目的として、学年当初から一つの事柄に対していくつかの立場から考え、その考えを言葉で表現することを積み重ねてきている。本単元でも、問題に対して自分の意見を持ち、それぞれの意見ごとにグループを作ってお互いに意見を交流する話し合いの活動を取り入れた。

(3) 成果と課題について

- ① 指導計画について
 - ア 朝廷を意識した指導計画を展開したことによって、「幕府」と「朝廷」の関係のイメージがつかみやすく、多面的・多角的に考えることができた。さらに、今後の学習にもつながる学びができた。
 - イ 当時の様子を正確に理解できていたか疑問が残る。資料をどこまで提示するか、歴史的な事実関係をどこまで与えていくべきか課題である。
- ② 言語活動について
 - ア 根拠に基づいて意見を発表したり、学習内容に対する関心の深まりも見られたりした。また、友だちの意見を聞いて自分の判断の振り返り、練り直し、考えの修正をする姿が見られた。
 - イ 資料を活用して、根拠をもった考えが必要だが、その資料はどこまで与えられる方

が良いのか検討することが今後の課題である。

③ まとめ

物事を多角的に見たり、自分の考えを何度も練り直しながら言葉で表現したりすることができたことは、社会の形成に参画する素地を養うことにもつながると考える。

2 協議内容

(1) 質疑・意見

① 「幕府派」「朝廷派」で話し合うことになったのはどのようなきっかけからか。また、話し合った後どのような児童の姿を期待したか。

→どのような立場に立つかを資料をもとに考えることによって、時代背景や勢力関係がとらえられ、内容の理解につながると考えた。また、将来的に児童が物事を様々な視点から考え、ものの見方には様々な可能性があると考えられるように考えた。

② 児童はどの程度資料を読み取って話し合っていたか。時代背景、周囲との関係等、どの程度調べて理解し、根拠をもっていたのか。

→時代背景はある程度教師が説明をした。勢力関係等は、事前に調べ、一定の理解のもとで話し合いをおこなった。

(2) グループ協議

① 単元について

ア ねらいを明確にすることで、児童の思考も変わっていき、学習課題も設定されていくのではないか。

イ 授業の記録が細かくされており、児童の考えの流れがよく把握できていた。

ウ 中学校の内容に関連する部分があり、今後小・中の連携が大事。

エ 「誰でも実践可能な単元計画」は実は難しい。児童や学校、地域にあった単元構成が望ましいのであろう。

② 言語活動について

ア 「まず自分の意見を書き、それを隣同士で話す」ということから始めることで、意見が出にくい状態を打破できるのではないか。

イ 話し合いの前提となる時代背景の理解や知識の蓄積が大切である。

ウ どのような力をつけるために、どの場面で、どのような形態で言語活動をおこなうのか、年間計画に位置づけることが必要である。

エ まず国語科の学習を基本にしながら、社会科では教科の特性をふまえて言語活動を展開することが大切。

オ 話し合い活動では、児童が話し合いへの切実感をもちつつ、教師が着地点をふまえて臨めるとよい。

カ 対立形式の話し合い活動では、意見がたくさん出る一方で、感情論になりやすい。いづれにしても根拠をしっかりとつことが大事である。

3 まとめ

単元を構成する際のポイントとして、「身近な地域を生かす」「観察や調査・見学などの体験的な活動」「表現活動の一層の充実」があげられる。

言語活動において、「切実感」をもつとはどういった場面なのか、という視点をもつ一方で、「感情論」的になる児童の勢いも生かすことも必要。その中で学習問題を設定していく。

<研究主題>

社会的なものの見方や考え方を育むために

～第5学年 「国土の地形や気候の特色と人々の暮らし」～

1 提案内容

学習指導要領の目標から研究テーマを設定した。社会科の学習に一人ひとりが主体的に取り組む過程を大切に、言語活動の充実を図ることにより「社会的なものの見方や考え方」を育むことができると考える。

(1) 児童の実態

初めてである言葉の理解に時間がかかる。発言の偏りがある。

(2) 研究の手だてと提案の重点

- ① 言語活動の充実を図る。
- ② 自分の考えを明確にする時間、根拠を明らかにする時間を設定する。
- ③ 社会的なものの見方・考え方につながる資料の選び方と提示の仕方を工夫する。
- ④ 授業のつながりを大切に、自分の考えを書くことのできるワークシートを工夫する。

(3) 授業実践の実際

(4) 考察

- ① 資料の提示とワークシートの工夫。
- ② 言語活動の充実を図る。
- ③ 単元目標に即した言語活動を設定することが必要である。
- ④ 資料提示の工夫、資料分析の視点を研究する必要がある。

2 協議内容

(1) 全体での質問等

- ① 輪中に暮らす人々、沖縄に暮らす人々となっているが、実際の人ではでてきたのか。
→デレーケを取り上げた。沖縄に暮らす人々では、職員の沖縄出身の人を取り上げた。
- ② 全ての資料を一度に出さずに、子どもの思考に沿って出すということはないのか。または、一つの資料で子どもの見方が分かれた場面はなかったか。
→資料の順序性は確かにあるが、クラスの実態を考えた中で、発言する児童が少数に限られていたので、一人ひとりが資料と向き合うということを大切にした。しかし、授業によっては、資料を順序に見せながら進めることもあった。
- ③ 「子どもの発言をつなげる手だて」を教えてほしい。
→子どもの発言でもつながる言葉をあげている。

(2) グループ討議で話題になったこと

① 資料について

ワークシートの提示が効果的だった。資料が多すぎると焦点がぼけてしまうことある。資料の何を目的にするかを教師がしっかりもっていないと難しい。子どもの方から、「このことがわかる資料がないか？」という声が出るという。

5年生になると資料を読み取る力をしっかりつけることが大切。例えば雨温図などは頻繁に出ているので読みとる力を系統的に付けることが大切なのではないか。

② 問題解決学習の充実

相談して考えを子どもたちが深める時間をもつことは大切だろう。問題解決的な学習とあるが、子どもが見方、考え方をどうもったかを大切にするべきではないか。じっくり事実を見て考える場面が必要なのではないか。子どもが「何でこうなるのか。」など疑問をもつことができる資料の提示が必要ではないか。言語活動の充実が目的になるのではなく、問題解決的な学習を充実させていくことが大切なのではないだろうか。

3 まとめ

(1) 助言

人の営みについても、問題解決的に可能な範囲で人々の知恵などを取り上げてほしい。資料の数についても話があったが、数が多い、少ないではなく、問いを出したりする時には事象の特徴をクローズアップするものが必要。学習問題を多面的に解決していくときには複数、複合させて取り上げていくことも大切なのだと思う。

① 言語活動について

書くという言語活動は大切である。言語活動というのは目標ではなく、自分の考えをもち筋道立てて分かりやすく表現するということを考えると、その過程が大切である。過程の中で書くことが大切になってくる。

② 研究テーマの分析

研究テーマに対する手だてが丁寧に整理され、また、具体的に書いている。考えを書くとか、問い返すことを繰り返すことが大切である。具体的な手だてを書き、すべての授業の中で一時間ごとに何の手だてをするかということが書かれているのは大切である。

指導計画の中に学習内容が書かれているのが大切。輪中の学習の中で「克水」だけではなく、ともに生きていく工夫を学習していることが大切。終わりに児童の学習感想の中にすべての教育活動の目標が書かれている。社会科に留まらない内容である。

(2) 全体のまとめ

① 学習指導要領の説明会から

中学校2年生は地理的分野で新旧2冊の教科書をもらうが、小学校4年生は新版の下をもらっていない。節水節電についてやきまりや法については旧の教科書には書いていない。内容の未習がないように。

学習問題の質の吟味してほしい。「調べよう」では、調べて終わってしまう。

言語活動は書く、話すだけでなく、絵や劇などの方法も考えられる。また、発表だけに終始するのではなく、話し合いが大切である。

中学校では今までは3つぐらいの地域の地理の学習をしてきたが、これからは、地域を見る視点をもとにそれぞれの地域を学習する。歴史も大きなくくりで学習したり、歴史が動くところを大切にしたりする。より、小中の関連が大切になってくる。